

有識者会議委員からの意見の中間報告

1. 有識者会議の設置目的

市の方針案の基礎となる専門的助言をもらう。

(都市計画やまちづくり、街の歴史や文化、地域経済や都市の防災など)

■ メンバー

有識者会議委員

佐々木 葉	早稲田大学理工学術院創造理工学部 教授/土木学会 第112代会長
岡崎 篤行	新潟大学工学部 教授/新潟市都市計画審議会 委員長
池田 千恵子	大阪公立大学大学院都市経営研究科 准教授
棚橋 重仁	新潟大学研究統括機構(工学部工学科) 研究准教授 土木学会 地下空間研究会委員
三宅 香織	NPO 法人 自治経営/元倉敷市役所

オブザーバー

大坂 剛 (R7)、近藤 修 (R8)	国土交通省 北陸地方整備局 建政部長
廣田 徹	第四北越銀行 専務取締役

■ 実施経過

これまでに、2回開催済み(3月、7月)。今後、2回開催予定(10月16日、12月22日)。

■ 有識者の意見概要

【都市機能について】

- 古町全体、新潟市全体を、また公共的な施設やインフラをどうしていくかという議論につながる考え方が出れば、実りの多い議論になる。
- 西堀地下施設だけの話ではなく、全体ビジョンの中で、全体を良くする検討が必要。古町は宝。
- 古町地区将来ビジョンはあるが、地上でも具体的に何か動きがあるように感じられない。人口が増えることがないならば、地下ではなく地上を優先すべき。

【財政面】

- 限られた財源の中、西堀ローサに投資することが、どういうことか認識しなければならない。将来世代に負担を残してはいけない。
- 市はリアルな数字を示し、市の考えを市民に知ってもらうべき。一度に開発し後戻りできないよりは、小さく始めていくことは良いと思う

【技術面】

- 仮に埋めるとなると、水道・電気などのインフラに影響があるだろうことから、調査が必要。埋める方法も単純ではないが、埋めた場合の経費は、今後のあり方検討に必要。

【西堀地下施設の検討について】

- 検討の期間が短いのであれば、防災インフラ系に進むのが現実的か。例えば社会実験や実証実験の場として検討する。防災庁と連携して。
- 古町に何が必要かを考えて、そのなかでローサに必要なものを考えなければならない。古町は世界に向けて新潟が自慢できるコンテンツだと思う。まず、そこをどうするかが大事。
- 私たちは、過去に作られたものを管理する重荷を抱えている。そういった負荷を増やさずに、価値を生み出して行くためには、どうしたらよいか。技術的な面を含めて、いろいろ議論できると良い。